

米国 製造業が牽引役となり押し上げ(17年2月鉱工業生産)

公表日：2017年3月17日(金)

～製造業の拡大モメンタムが一段と強まる～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (SIC)	生産能力
	前月比	前年同月比									
16/02	▲0.1	(▲1.4)	▲0.1	+0.4	▲1.1	▲1.4	+0.1	+0.9	+75.6	+75.4	+0.0
16/03	▲0.9	(▲2.0)	▲0.4	▲2.2	▲4.0	▲0.1	▲0.5	▲1.2	+74.9	+75.0	+0.0
16/04	+0.4	(▲1.4)	+0.1	▲3.2	+6.2	▲0.2	+0.1	+1.3	+75.2	+75.0	+0.0
16/05	▲0.1	(▲1.3)	▲0.2	+0.8	▲0.5	+0.7	▲0.2	▲4.5	+75.1	+74.8	+0.0
16/06	+0.5	(▲0.6)	+0.2	▲0.1	+2.9	+0.7	+0.1	+5.6	+75.4	+75.0	+0.0
16/07	+0.3	(▲0.9)	+0.2	+0.8	+0.3	+0.9	+0.2	+0.7	+75.6	+75.1	+0.0
16/08	▲0.1	(▲1.1)	▲0.4	▲1.1	+2.8	▲0.4	▲0.4	+0.9	+75.5	+74.7	+0.0
16/09	▲0.3	(▲1.1)	+0.1	▲0.5	▲2.8	+1.4	+0.0	▲0.5	+75.3	+74.8	+0.0
16/10	+0.3	(▲0.7)	+0.3	+4.1	▲2.7	+1.9	+0.4	+0.8	+75.4	+74.9	+0.1
16/11	▲0.3	(▲0.3)	+0.1	▲0.2	▲2.5	+1.1	▲0.0	▲1.3	+75.2	+74.9	+0.1
16/12	+0.6	(+0.7)	+0.2	▲1.4	+5.4	+0.5	+0.2	+1.0	+75.6	+75.0	+0.1
17/01	▲0.1	(+0.2)	+0.5	+2.2	▲5.8	▲0.2	+0.6	▲0.8	+75.5	+75.3	+0.1
17/02	+0.0	(+0.3)	+0.5	+2.7	▲5.7	+0.2	+0.6	+0.8	+75.4	+75.6	+0.1

2月の鉱工業生産は 前月比0.0%と横ばい に改善

17年2月の鉱工業生産は、前月比+0.0%と市場予想の同+0.2%を下回った(過去の数字は0.1%p上方改定)。暖冬の影響による公益事業の縮小にもかかわらず、製造業や鉱業の拡大により前月の同▲0.1%から改善した。公益事業は例年よりも高い気温によって暖房需要が減少したため前月比▲5.7%と2ヵ月連続で減少した。一方、鉱業が原油価格の上昇を受けた石油・ガスの掘削などの拡大を背景に前月比+2.7%と加速し2ヶ月連続の増加となった。また、製造業生産は、国内需要の堅調持続、在庫調整の進展、世界的な生産活動回復の動きなどの影響を受け前月比+0.5%と6ヵ月連続で拡大したうえ、高い伸びを維持し市場予想中央値と一致した。実際には、過去の数字が0.4%p上方改定されており、市場予想よりも製造業の生産活動は強まっている。

業種別では、木材、家具・関連製品、電気設備・部品、繊維、化学が減少に転じたほか、石油・石炭、食品・飲料・タバコが鈍化した。一方で、自動車・同部品、紙、印刷・同サポートが増加に転じたうえ、非鉄、加工金属、一般機械、コンピューター・電子機器、プラスチック・ゴム製品、その他耐久財が加速した。また、一次金属が前月比+0.6%の伸び率を維持、アパレルは横ばいに改善したほか、航空機・その他輸送設備、その他製造業が減少幅を縮小した。

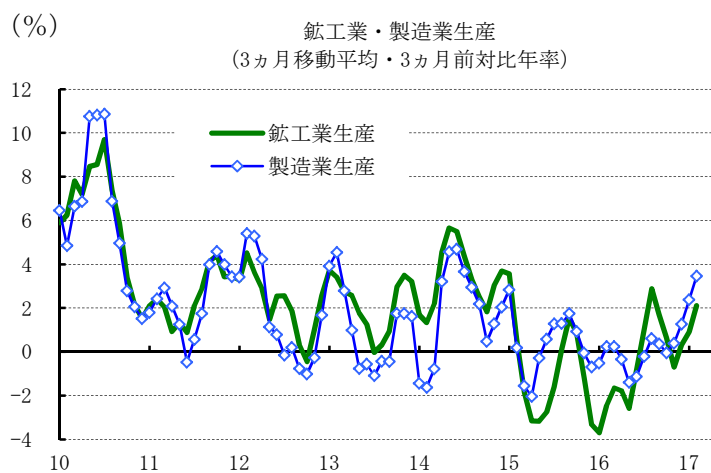
稼働率では、生産が横ばいだった一方、投資の持ち直しにより生産能力が増え始めたことを背景に鉱工業全体が75.4%(前月75.5%)と低下し、市場予想の75.5%を下回った。一方、製造業は75.6%(前月75.3%)と15年10月以来の水準に回復した。

生産活動は緩やかな改善を続ける見込み

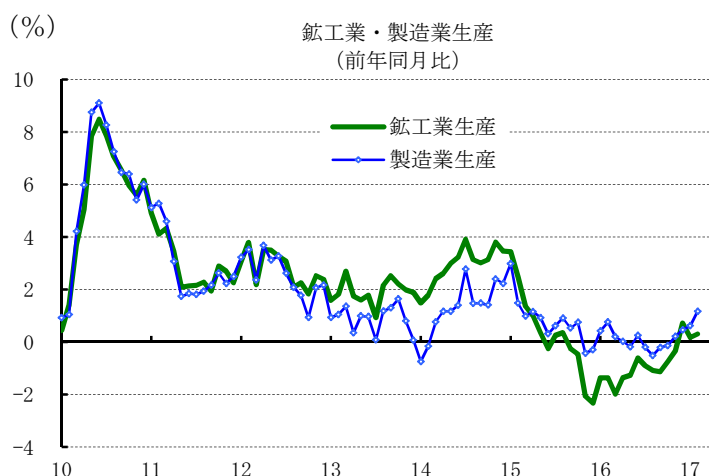
3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が公益の急減にもかかわらず、製造業、鉱業の拡大を背景に+2.1%(前月+0.9%)とプラス幅を拡大した。また、製造業生産は、一般機械、コンピューター、石油等の上昇により+3.5%(前月+2.4%)とプラス幅を拡大しており、勢いが強まっている。

四半期では、1、2月の鉱工業生産（平均）は、温暖な天候による公益の大幅な落ち込みにもかかわらず鉱業や製造業の拡大を背景に前期比年率+1.1%（10-12月期同+0.3%）と加速した。また、1、2月の製造業生産（平均）は、非鉄、加工金属、一般機械、食品・飲料、石油・石炭、化学、プラスチック・ゴムなどの拡大により前期比年率+3.7%と10-12月期の同+1.3%からプラス幅を拡大した。1-3月期の生産や経済活動の活発化を示している。

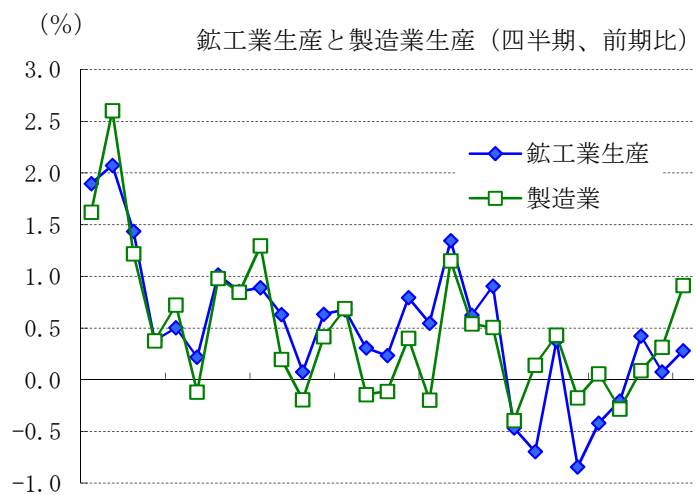
今後の鉱工業・製造業生産活動は、堅調な国内需要、原油価格の上昇、在庫調整の進展を背景に押し上げられるものの、ドル実効レートの高止まりや世界経済の成長鈍化の影響を受け、緩やかな拡大が予想される。



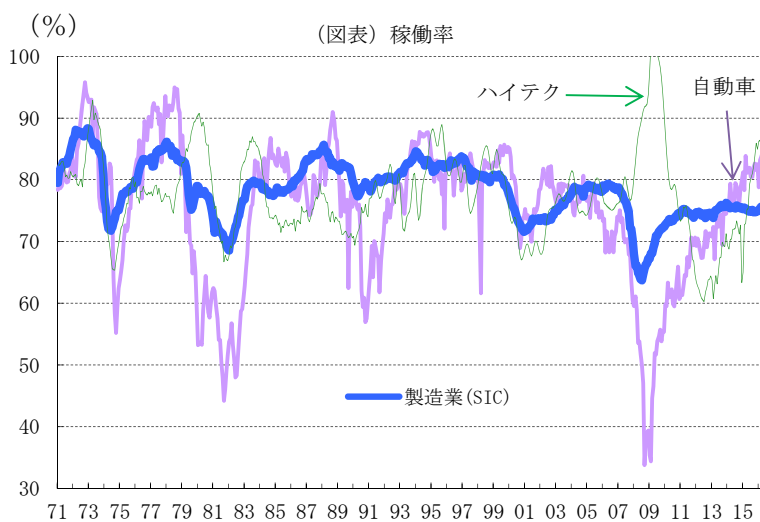
(出所) FRB



(出所) FRB



(出所) FRB



(出所) FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。